



おもな登場人物



ソフィア

スポーツ大好きな6年生。
ルーシーとは親友だったが、
絶交中。



マヤ

学校一おしゃれな7年生。
学校新聞にファッション
コラムを連載。



ルーシー

数学がとくいな6年生。
将来のゆめはプログラマー！
元気でせっかちタイプ。



エリン

転校してきた7年生。演技や
ダンスがとくいな芸術派。
しゅみは、おかし作り。

うのは、きついだろう。それに転校生のエリンにはいま、なかよくしてくれる人が必要で、同じ机つくえにいるほかのメンバーは、それにはふさわしくないように思えた。

「こんにちは」

わたしはいった。エリンはわたしに、かすかにほほえみかえして、それからドアのほうを見た。ステファン校長が出ていくときに、ドアをあけたままにしていたら、エリンは走って廊下ろうかに出ていっていたかもしれない。

「それでは」

数学の時間に新しいことを説明しようとワクワクしていると、きと同じように、クラーク先生は、両手をこすりあわせた。

「紙袋かみぶくろにさわってはいけません。それはあとでね。きょうは最初に、書く課題をしてもらいます」

先生は、えんぴつとインデックスカードをわたした。

「グループで教えあったりせず、各自、ピーナツバターとジャムのサンドイッチのレシピを書いてください」

先生はストップウォッチをとりだした。

「制限時間せいげんじかんは、2分以内」

先生はタイマーをセットした。

「はじめ」

えっと、なんだろう？ ピーナツバターとジャムのサンド



イッチ？ これとプログラミングと、なにが関係あるわけ？ わたしは手をあげた。

クラーク先生は、あきらかに「あとでね、ルーシー」という顔をした。みんなが先生の課題を早く終えれば、そのぶん早くコンピュータにもどれるだろうと思って、手をおろした。

わたしはカードをつかんで、ささっと書いた。

パンを2つ、とりだす。ピーナツバターをあける。

パンの片面かためんにそれをぬる。

ジャムをあけ、べつの片面にぬる。

2つを重ねる。

ジャジャーン、ピーナツバターとジャムのサンドイッチのできあがり。

およそ3秒でしあげた。体をおこしていすにもたれ、グループの子たちをながめた。

マヤはレシピに絵もつけている。ほんとに、じょうず。マヤはときどき、新聞の記事につけるイラストを描かいている。なにか声をかけたくなかったけれど、なんていう？ マヤはたぶん、わたしが同じグループだということにも気づいていない。

ソフィアはカードのいちばん上に「ルール」と書いて、かな

chapter 5



ふたたびロッカーへもどったのは、最後の授業^{じゅぎょう}が終わるベルが鳴ってからだ。廊下^{ろうか}のはしからでも白い封筒^{ふうとう}が見えた。最初の手紙と同じように、ロッカーのとびらにテープで貼^はってある。それほど近づかなくても、表にわたしの名前が書いてあることがわかった。

もうっ、お兄ちゃんってば、また！ わたしは封筒をあけた。手紙には、こう書いてあった。

```
もし (わたしのいうことに同意するなら){  
    友だちをつれて ();  
    校庭へいけ ();  
}
```

手紙はいつからここにあったんだろう。最初の段落^{だんらく}の下に、べつのメッセージがあった。

```
もし (校庭へいったら){  
    いちばん近いベンチの下を見ろ ();  
    大きな黄色の封筒ふうとうを見つけれ ();  
}
```

それから1行あけて、3番目の段落^{だんらく}があった。

```
もし (封筒を見つけたら){  
    わたしを信じろ (“きみはプログラミングを学ぶだろ  
    う”);  
}
```

「アレックス？」

わたしはロッカーがならば廊下^{ろうか}を見わたして、よんだ。でも自分のロッカーのところにいる子たちしか見あたらない。

「ここにいるの？」

今度は反対側をむいていった。

「だれが？」

この前プログラミング・クラブで涙ぐんでいた転校生^{まわだ}が、すぐ近くに立っていた。名前はなんだったっけ。ふいに頭にうかんできた。そう、エリンだ！

chapter 9



その夜、ソフィアとわたしはエリンとグループチャットをした。アンジャリも参加するはずだったけど、家の用事でいそがしくなったらしい。



エリン

れんらく
連絡ありがとう、みんな 😊😊

ソフィア

気にしないで!! 具合どう?



エリン

だいじょうぶ。
でも、ママがまだ学校にいっちゃ
だめって 🙅🙅🙅🙅

ルーシー

えー、ひどいね

ルーシー

宿題、もっていこうか? 📝📝



エリン

うん、おねがい!
でも、いっしょの授業ないよね…… 😞😞

ルーシー

ああ、同じ学年じゃない
ことわすれてた(笑)! 🙄🙄

ソフィア

(笑) マヤも7年だからきいてみよう

ルーシー

おお、いいね! 👍👍

ドレス・トゥ・インプレスでマヤと放課後をすごしたあと、プログラミングの手紙のことで、またなにかわかったときのために携帯番号を交換していたから、マヤをチャットによんだ。マヤはすぐに返事をくれた。



マヤ

役に立ててよかった! 😊😊

土曜日、わたしたちみんなでエリンの家に宿題をとどけに行くことになった。そのときまでに、よくなってるといいな。

金曜日の朝、ソフィアとわたしが英語の授業へいこうと廊下を歩いていると、うしろから声がした。

「ルーシー! ソフィア!」

「あ、マヤ!」

エリンが答えた。

「でも、こんなの見たことない。たんなる四角でしょ。どうやって動くの？」

マヤがいった。

「たんじゅんなテキスト・エディタだよ。プログラミングには、ふつうのワープロソフトは使えない。フォントとか内容変更のないようへんこう書式設定しよしきせっていがあると、プログラミングのじゃまになるから」

エリンは答えた。みんなキョトンとして、エリンを見つめた。エリンがコードを打ちはじめると、タイプライターみたいなフォントで書かれた文とカッコが画面に出た。

「ね？ これだと、コードのならばかたが見やすいでしょ。じゃまになるものがないから、せいかく しじ正確に指示を出せる」

「じゃあ、もしここになにかプログラムのコードを書いたら、それを動かしたりできるってこと？」

わたしは、エリンのいっていることを理解りかいしようとしながらいった。エリンは笑った。

「『動く』といういいかたがいかどうかはわからないけど、ここでゲームをプログラミングすれば、ネット上で遊べるよ。だれかほかの人にプレイしてもらおうことも。で、そうさせないように、パスワードをかけることもできる」

わたしはちょっと考えた。



条件文とは、もし〈なにか〉がおこれば、コンピュータが〈なにか〉をするというものだ。お兄ちゃんは、まずプログラムは紙に〈疑似コード〉とよばれる書式で、下書きすればいいと教えてくれた。お兄ちゃんの説明によると、疑似コードというのは、コンピュータ・プログラムがすべきことを、プログラミング言語ではなく、ふつうの言葉でくわしく書いたものことだそう。

エリンがアイデアを出した。

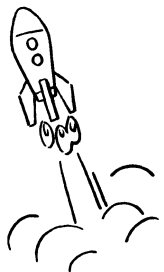
「もし、あなたが校庭にいたなら、『Yの文字をおせ』といえればいいんじゃないかな。それで、プレイヤーが打ったキーを変数として保存する。で、いいんだよね？」

「そのとおり！」

お兄ちゃんがいった。

それからお兄ちゃんは、「イエス」と答えなかったプレイヤーがゲームオーバーになるときの、アニメーションのデザインをてつだってくれた。つまりその場合、プレイヤーはわたしたちがさがしている相手ではなかったということだ。

それから、爆発するロケットの絵をマヤが5枚描き、その5つの絵をくりかえして表示するのに、お兄ちゃんがループの使いかたを



教えてくれた。それから、わたしたちは、ループを使ってオリジナルのGIFアニメーション（パラパラマンガみたいに静止画をコマ送りで表示し、動いているように見せる画像のこと）を作った！

このゲーム、だんだんいい感じになってきている。

最初の質問ができあがったときの疑似コードは、こんな感じ。

質問1 = “火曜日、あなたは校庭にいましたか？”

見せる (質問1);

while (質問が残っている){

if (Yのキーがおされたら){

次の質問を見せろ ();

}

else {

ロケットのループを見せろ ();

プログラムを終了せよ ();

}

}



ミドルスクールって、

授業……ミドルスクールでは、生徒1人1人が自分のレベルや興味にあわせて授業をえらんで、自分だけの時間割をくむんだ。小学校のときとちがって、生徒たちの教室に先生がくるわけじゃなくて、生徒がそれぞれの教科ごとに教室を移動する。だから、次はどの教室にいくか、なにが必要か、どの授業でどんな宿題が出たか、ちゃんと自分で把握していかなくちゃいけない。とくに学校を休むと、情報を手に入れるのがたいへん！

ロッカー……学校の廊下には、ズラリとロッカーがならんでいる。自分の教室や机がないから、教科書やノートなどのもちものは、ロッカーに入れておくんだ。ベルが鳴って授業が終わったら、自分のロッカーにいった必要なものをとりだし、つぎの教室へすぐ移動！ そんなわけで、休み時間はいつもいそがしい。



クラブ活動……サッカーやアメリカンフットボールなどのスポーツ系クラブから、プログラミングや映画、アートなどの文化系クラブまで、いろいろあるよ。1年じゅう同じクラブに所属するのではなくて、シーズンごとにクラブをかえて、楽しめる。曜日がぶつかなければ、かけもちもできるよ。人気のあるスポーツ系クラブの場合は、監督の前で入部テストを受けることもあるんだ。



こんなところ！



通学……家が近い人は歩きだけど、遠い人はスクールバスに乗ったり、家族に車で送り迎えしてもらったりして登下校する。ハイスクールの11年生からは、自分で車を運転して通学してもOK。

服装……制服はなくて、メイクしたり、アクセサリーをつけたりするのもOK。いろんな文化や宗教の子がいるし、服装についてはわりと自由なんだ。でも短すぎるスカートとか、よくない言葉が書いてあるTシャツとかはNGだよ。

宿題……塾にいく子はいないけど、学校の宿題はたくさん出る。ハイスクール卒業まで受験がないのはいいんだけど、サボっていると留年することもあるから、勉強はしっかりやらなくちゃ！



ランチ……教室じゃなくて、食堂（カフェテリア）で食べる。お弁当（といっても、リンゴとグラノーラバーだけだったりすることも多いけどね）をもってくる子もいるし、食堂のランチメニューを食べる子もいるよ。

先生……教科を教える先生のほかにスクール・カウンセラーがいて、成績のことや学校生活について相談にのってくれるよ。

